



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

には今とは違った豊かな色彩の仏像であったのだろうと想像した。

南円堂の前の、両側に赤い幟(のぼり)が並びはためいている石段を下って、三重塔に向かった。初層の中には、弁財天がまつられている。壁に描かれた仏画は、色あせて板壁の中に消えていた。以前シルクロード

な右面の顔は神秘的で、見る者は離れがたい。以前、東京国立博物館で展示された時に人气的であったと聞いたがうなずける。千年以上の時を越えて、われわれを魅了する普遍性があるのだろう。

## 〈38〉興福寺国宝特別公開

夏の強い日差しがまだ残る中、奈良の興福寺を訪ねた。出無精な妻が、テレビで興福寺の五重塔と三重塔の中を特別公開していると聞いて、ぜひ行きたいと言ふ。特に五重塔の内部は6年ぶりの一般公開というところである。奈良を訪ねても、五重塔は通り過ぎるだけの私たちは、興味を持った。

安置されている。静寂に満ちた、時間が止まったような空間の仏像たちは、尊く出た。

跡で見た仏画の痕跡を思い出した。

シルクロードのベゼクリク干仏堂という仏教遺跡で、偶像崇拜を禁じるイスラム教徒により毀損(きそん)された仏教壁画を見たことがある。私たちは、偶像を拝んでいるのではない。仏像を通してその向こうの真実を見ようとしているのだ。そうでなければ、全てのアートは存在しないと思う。真実をありのままに理解するのも仏教の教えと聞いた。古くからの祈りの場を守ってきたこの国に生き

興福寺の広大な寺領の一角に五重塔はある。仮設のロープで示された進路を進み、開かれた両開きの木の扉を通る。几帳(きちょう)と呼ばれるのれんの向こうの、初層(1階)の部屋に

気高い。空調もない木造の塔の中で何百年と守られて来たのである。古色蒼然(そうぜん)とほしているが、光背は金色で、蓮の台座には緑色の彩色がわずかに残っており、作られた時の顔、内省・洞察するよつ

前に駐車場がある興福寺の国宝館で展示されている阿修羅像は見入ってしまう。憂いを秘めた少年の正面の顔は気高く美しく、唇をかむようなしぐさの左面に生き